

# 続・思いつくままの地学用中国語

岸本文男(地質相談所)

Fumio KISHIMOTO

「思いつくままの地学用中国語」を本誌の第394号に載せてから さまざまに意見や感想 さらには珍しい「漢日鉱物地質用語辞典」まで贈っていただいた。身にすぎるご配慮と 心から感謝申しあげる次第である。それと同時に 中国語の文献や訳語についての所内外からの質問が増え 筆者はあの一文だけでは足りないことを痛感した。それでまた 筆を執った。

さて 一般的な中国語の文法書は大抵の本屋さんで売っているから 文法はそれにお任せすることにし 前回に引き続き今回は筆者の経験に依存した「地学用中国語」の解説を進めたいと思う。

一般の文法書には全く触れられていない言葉の使い方に出会ってすっかり考えこんでしまう場面 あるいは日本語での言葉と混同して誤解したまま先に進み 後で身動きならなくなる場面などなど 実際に中国語で書かれた文献を読んでいると 難問に不自由しない。その難問の中でとくによく出てくるのは 言葉の省略である。今回は 主にこの言葉の省略についての話であり ついでに「儀礼的な表現」に触れ 最後に専門辞書の類を紹介する。

## 略称

どこの国でも同じようなものだと思うが 中国でも言葉の省略に遠慮がない。その省略の第一は いわゆる略称である。その略称のやり方にも おおむね二通りのものがある。

たとえば日本には 東京大学が「東大(とうだい)」通商産業省が「通産省(つうさんしょう)」パーソナルコンピューターが「パソコン」農業技術研究所が「農技研(のうぎけん)」で通用する省略の仕方がある。これが第一のやり方であり そして 第一高等学校が「一高(いちこう)」大臣官房を「官房(かんぼう)」プロフェッショナルを「プロ」蚕糸試験場を「蚕糸(さんし)」と省略する方式 これが第二のやり方である。第一のやり方をここでは仮に「等分省略」第二のやり方を同じく「片寄せ省略」と呼ぶことにする。前者は正式名称から 文字を等分ないしほぼ等分に拾って組み立てられ 後者は正式名称の文字配列の前寄りか 中間

あるいは後寄りの連続部分を採用しているからである。さらに 日本書紀と古事記を「記紀」で一括表現することがあるが このようなやり方を「合称」と呼ぶことにする。この「合称」の場合の省略には おおむね「等分省略」の方式が用いられている。

面倒なことに 略称の組み立て方は以上の2種だけに限定されていない。両者の中間型もある。たとえば 関西学院大学を「関学」 関東鉄道株式会社を「関鉄(かんてつ)」といった風に。不幸にして「等分省略」にも該当せず 「片寄せ省略」と考えても解釈できない略称もしくは略称らしき言葉に行き当たったら中間型のもと想定し 上記の2種を念頭にして 臨機の応用に知識をしばり出すことになるだろう。

要するに 長ったらしい名称を出来るだけ詰めようとして生まれたのが略称や合称であり どの場合でも 該当する対象の内容がすぐに浮かばなくては意味をなさないし 本来の名称も その略称が使われている分野の人なら 誰でもわかるものでなくてはならないはずであるが 実際には略称が多すぎて憶えきれないのが普通である。外国のことであれば なおさらである。

さらに ごく限られた集団や地域でしか通用しない省略語もあるが それは略称とは言いにくい場合が多い。たとえば 新宿を「宿(じゅく)」 工業技術院を「院(いん)」と呼ぶ類がそうである。これらはむしろ 隠語に入るのではあるまいか。しかし その境界は引き難いから ここでは目をつむる。

先にも述べたように 中国でも言葉の省略を好むことは日本や諸外国と同じか それ以上で 地球科学関係の中国語の文献を読んでいて注意しなくてはならないことのひとつが この略称・合称の存在と省略の仕方である。

幸いなことに 場所や機関 組織や重要な行事など全国に知られた 公共性の高いものの名称の省略の仕方には日本との類似性が見られる。いずれも漢字を使っているのだから 当然のことかも知れない。したがってたとえば機関名の略称ではないかと気付きさえすれば 正式の機関名が載っている文献に当ることになり それで問題は解決する。場所名の省略ではないかと思えば 後は地名辞典や地図を調べるか 自分の知識に総動員をかけることになる。実際の地質関係の論文や地質辞典

類からいくつか例を挙げてみよう。

**地鉍部**：地質鉍産部の略称である。これは地名ではないが 政府機関や教育機関 国営企業など新聞記事にひんばんに掲載される名称も おおむね正式の略称を持ち 地質関係の研究所 機関企業と同じ扱いという例である。これと同じような略称としては 煤炭工業部の煤工部（もしくは煤炭部） 化学工業部の化工部がある。研究所の場合には 最後に必ず所をつける。たとえば 貴州にある地球化学研究所は地化研所 北京にある中国地質科学院地質鉍産研究所は地科院地鉍研所である。これに類する略称として 化学検査室（化学分析室のこと）が化驗室 さらに北大（北京大学） 武警黄金部（武装警察黄金指揮部） 地調所（地質調査所）などがある。日本では地質調査所を略して「地調」と呼ぶが 中国で地調と言えば「地質調査」を意味し これも使われることがある。去年の11月に設立された中国地質大学は「中国地質大学」であって まだ略称にはお目にかからない。それが「中大大」になるか 「地大」になるか それとも「地質大」になるか その略称が活字になる日を心持ちにしている。「中大」は中山大学の略称としてすでに普及しているから 重ねて使われることはないだろう。

**興蒙地槽**：これは 中国全域や東北地方の広域地質構造を取り扱った論文にしばしば現われる地質用語で 地槽とは日本で言う地向斜のことである。そこで この地槽という言葉を除くなら 問題は興蒙である。さてそれではと地図の索引をいくら引いても 興蒙という地名は見つからない。これは先に述べた「等分省略」による興安嶺—蒙古の「合称」だからである。

**邯邢式鉄鉍床**：中国の鉄鉍床に関する論文に時々でくる言葉で 鉄鉍床の一つのタイプを表しているのであるが 邯邢って何処だろうと 地図に当たってみても決して見当たらない。ひょっとしてこれも「等分省略」の産物？と疑った人の勝ちで 確かに邯鄲・邢台のまさに等分省略（そして合称）である。

**鄒盧深断裂帯**：これは中国東部の非常に有名な剪断深部断裂で 南は安徽省太湖湖の大別山脈の麓に始まり 北方に盧江 駱馬湖 さらに鄭城を経て沂水 から萊州湾に達し 総延長は800kmに及び 最近では地震や渤海の油田分布構造との係わりで特に注目されている構造帯であるが この経由する地名でおわかりのように これも鄭城—盧江の「等分省略」そして「合称」なのである。吉黒褶皺系（吉林—黒竜江褶曲系）とか 雲貴運動（雲南—貴州運動）とか 京津地区（北京—天津地区）とかも そうである。

以上は 等分省略（もしくは等分省略に近い方式）に

よる略称と合称のほんの数例である。片寄せ省略による略称は等分省略による場合よりも実際にははるかに少ないが 2・3の例を挙げれば 次のようなものがある。

**黒**：省名を一字であらわす方式は 後ほど詳しく紹介するが これはまさしく黒竜江省（または黒竜江地方）の片寄せ省略で これに似た略称としては 寧夏回族自治区の「寧」 新疆ウィーグル族自治区の「新」ないし「新疆」 西藏自治区（チベット自治区）の「蔵」がある。だから「北蔵」地区を地図上で探しても「北蔵」という地名が見つけれられるはずはないのである。なお「新疆」を新疆省と訳している場合が散見されるが これは感心できない。キチンと新疆ウィーグル族自治区と訳すべきであろう。新疆省という省はないのだから。地質学の世界では地名が重要な役割を担っているから 簡単に考えないよう心得たいものである。

**南開**：南開大学の片寄せ省略による略称。これを人民日報という新聞で読んだとき 何のことやらわからず 困ってしまったが 文意を追って正解に辿り着いたときには嬉しかった。「川大」「西南聯」も同様な略称で 前者は四川大學 後者は西南聯合大学のことである。

機関や学校 協会などで地質科学に係わりがありそうな略称を次に並べてみよう。

**鞍鋼**：鞍山鋼鐵公司

（類例：包鋼—包頭鋼鐵公司 宝鋼—宝山鋼鐵公司 重鋼—重慶鋼鐵公司 本鋼—本溪鋼鐵公司 攀鋼—攀枝花鋼鐵公司 首鋼—首都鋼鐵公司等）

**地院**：地質学院

（類例：鋼院—鋼鐵学院 礦院—鉱業学院 師院—師範学院 体院—体育学院 航院—航空工業学院など）  
計委：計画委員会

（類例：科委—科学委員会 民委—民族事務委員会 人委—人民委員会 体委—体育運動委員会など）

**中科院**：中国科学院

（類例：中研院—中央研究院（台湾） 地科院—地質科学院 農科院—農業科学院など）

**珠峰**：珠穆朗瑪峰（エベレスト山）

**印支**：印度支那

地質にはそれほど関係ないが 次のような 日本ではひどく誤解されそうな略称や合称もある。

**亜大**：亜州・大洋州（アジアとオセアニア）の合称

**亜太**：亜州・太平洋地域の合称

**市府**：市人民政府

**石化**：石油化学工業

上図：上海図書館  
 女中：女子中学校  
 国大：国民代表大会

実際に常用されている略称は ゴマンとあると考えて絶えず注意を怠らないことが中国語の文献に当る場合の内容の理解を早める一つの秘訣と 著者は考えている。

省略された地名の検索には できるだけ詳しい地図が手もとに置かれていることが必須の条件である。中国がそのような 役立つ 詳しい地図やせめてもの詳細な地名集・地名辞典を編集・出版し あるいは輸出してくれることを切望してやまない。すでに「河北省地図冊」など3冊の県別地図張が出版され 日本でも販売されている。この種の地図張がすべての省・自治区・直轄市について 早く出版されることを願っている。

また 地名以外の略称に対処するには 「中国略称辞典」の類があればそれに越したことはない。もしそれが手もとになければ(略称なら何でも来いと言える「中国略称辞典」の類は出版されていないのだから 手もとにあるはずはないが) 上に述べたように 文意とか前後の文章から解釈すること。大抵は それで解決する。それでもわからなければ あとは蓄積した知識をありったけ動員するか 詳しくうな人に聞くしかない。

筆者が「南博」という言葉に出会ったのは 新聞「光明日報」の

“南博科研人員取得学術成果”

という一文の中であった。これを訓読みすれば

“南博の科研人員 学術成果を取得す”

となるだろう。科研とは 科学研究の等分省略で 日本でも“文部省の科研費”などとよく使われている。翻訳すれば

“南博の科学研究者が学術上の成果を挙げた”

となる。この「南博」が地名であれば それはかなり大きな都市のはず。でもそれは地図になく したがって地名というより 科学研究機関である可能性の方が大きい。そこで 中国の政府機関・研究所とそれぞれの代表者をリストアップしている中国自身の出版物に目を通して どうか確認できたのが「南」は南京 「博」は博物館であることを知った。「上野の科博」の「博」であった。

## 動詞の省略・合称

漢字しか使わないのであるから 中国語では動詞の省略と合称が簡単にできる。この「簡単」という言葉も考えてみれば 「簡易単純」の等分省略であり 「簡易」の「簡」と「単純」の「単」の合称である。ここで言

う合称とは この「簡単」のような省略を指している。地質学の論文や地質関連記事に出てくる動詞の合称を少し拾ってみよう。

**勘探**：一般に用いられる言葉に「勘探」はない。「探明」という言葉にもよく出会うが これも地質関係の論文や記事でないともまず出てこない。前者は「勘探」の「勘」と「普查」の「査」の合称で 探鉱と調査を表し 後者は「勘探」の「探」と「解明」の「明」の合称で 試錐探査で発見・確認したことを意味している。

**控礦**：これは鉱床関係の論文でしばしば目にする用語である。控とは制御 礦とは鉱体(または鉱石か鉱床)のことで 日本で言う「鉱床規制」に相当する。これに類する用語として 「層控」や「岩控」がある。前者の層は層準の略 控はもちろん制御の略であって 日本では「層準規制」と表現している。後者の岩は岩石の略であるから 「岩控」は「岩石規制」の意味になる。

**区測**：この言葉は中国語の「区域」と「測試」の合称であるが 誤訳されていることが多いので とくに取上げた。「区域」とは「広域」の意味であって 日本語の「一区域」を意味するのではない。中国語で「一区域」を表す場合には 先に地名があって 次に「区域」がくる。ただ「区」の一字が使用されるだけのこともある。県の区域なら「県区」 北京の区域なら「北京区」といった風に。次の「測試」は「測定試験」の略語で 幅広い内容を持っていて 測量に限定された用語ではない。したがって この「区測」は「広域測定」か さらに意味を広く取って 「広域探査」と表現すべき用語である。これに類するものとして しばしば出てくる言葉に「航測」がある。

**「管而不死 活而不乱」**：これは「中華人民共和国鉱産資源法」が1986年の3月に公布されてから 新聞に書かれるようになったスローガンであるが 「カンシテンナズ カッシテミダレズ」と読む。「管」は「管理」を省略した表現であり 「活」とは「活化」の省略である。したがって このスローガンは「管理しても活力を失わず 活化してもでたらめにならず」と言っているのである。

## 名詞

今ではごく自然に使われている「経済」という言葉も元はと言えば 「経済済民」の等分省略 そして合称で 「国家によって民を救う」を意味している。一人一人の国民の生活を豊かにすることが「経済」の元来の意味なのである。

地質の論文に出てくる とくに地質用語に見る名詞の等分省略の例には 次のものがある。

傾向：これは tendency の「傾向」ではない。傾斜方向の省略語 すなわち「dip の方向」のことである。それで「走向」が走行方向の省略語であることに気付かれると思う。日本でいう「傾向」に相当する中国語は「趨勢」である。なお「dip の角度」を中国語では「傾角」という。これまた 傾斜角度の省略語である。

灰岩：石灰岩の略称である。最近ではキチンと「石灰岩」と表現され「灰岩」はそれほど使用されていないが それでもときどき見かけることがある。

元素 中国では「灰」は「石灰」(カルシウム)の同義語なのである。中国語では 元素名は一字で表現される。そして一般的に 金属元素・稀土類元素は金ヘンが 親石元素は石ヘンが 気体の元素は気がそれぞれ付いた一字が使用されている。

引き続き 名詞での省略の例を挙げてみよう。

礦区：この用語も 日本人にとってはまぎらわしい言葉で「鉱山区域」「鉱床区域」の等分省略である。

ときには 論文の内容によっては「鉱床」と訳した方が良い場合もある。日本では 国が認可した 個人または団体の鉱業権の及ぶ区域を鉱区と呼ぶのであるが 中国の言う礦区とは「開採・開採準備礦床区域及近隣区域」と定義されている。日本ほどの明確な定義でないため 個人の鉱山開発を歓迎する開放政策が進められるにしたがって 混乱が広がっているのも この「礦区」の定義内容に係わりがありそうである。鉱山の施設のあるところ 地表・地下すべて「礦区」と思えば良いらしい。最近では「中華人民共和国鉱産資源法」の施行に伴って礦区の範囲の線引きが行われ 採鉱権の認可・登録制が実施されているが 地上権を伴うことも含めて 地域住民の理解はまだまだの感がある。

ここで極端な省略例に入ろう。すさまじいまでの省略語に戸惑うことも 別に珍しくない。それは漢字であろうと横文字であろうと同じようなもので 中国だけの特徴ではあるまい。日本にだって「軽・薄・短・小」の産業とか「狭・高・遠」の住宅といった外国人泣かせの省略語があって 平然と使用され ロシア語でも BHK (油水界面) や OB (有機物) MГY (モスクワ大学) などがひんぱんに出てくる。

中国語の文献 とくに1986年3月の「中華人民共和国鉱産資源法」の公布以降の地質関係の雑誌や 新聞に実によく出てくる言葉の「老・少・辺・窮」区あるいは「七五」時期も すさまじい略称と言えるだろう。前者は「旧革命根拠地・少数民族・辺境・貧窮」地域 後

者は「第七次5ヶ年計画」期間のことなのである。このような 今日的な言葉についての十分な略称辞典といったものは 現在のところ探しても無駄である。今手に入る略称辞典としては 済南の齊魯書社が1986年に出版した「現代漢語縮略語詞典」があるが 採用されている略語が少なく 700語ばかりで しかも地球科学分野の略称は無いに等しい。これでは 十分が言えない。なお 英漢の地質関係の略称については適当な辞典があるが 漢英でないからひどく使い難い。

## 言葉の代用

言葉の代用とは 二字以上の地名・事象を漢字一字で表現するやり方である。湖南省を「湘」 河南省を「豫」 山西省を「晋」で表現するなどの事例が代表的な実例である。日本でも たとえば和歌山県を「紀」 鹿児島県の場合を「薩」で表現することが少なくない。そして 地球科学関係の論文の中で「南紀地方の・・・」とか「北薩の・・・」というように使用されている。

ここで 中国で歌われている省・自治区・特別市の略称おぼえ歌を紹介しよう。それは 次のような歌詞である。

京津滬 遼吉黒 冀魯豫 晋陝甘  
閩粵桂 川滇黔 蘇浙皖 湘鄂贛  
青新寧 蒙藏台 我祖国 好河山

この歌詞の最後の2節(我祖国 好河山—我が祖国の素晴らしい山河)の他は 一字一字がすべて どれかの省・自治区・特別市の名を表した略称である。因みに それぞれの正式な名称と対比してみると 次のようになる。

京—北京市	津—天津市	滬—上海市
遼—遼寧省	吉—吉林省	黒—黒竜江省
冀—河北省	魯—山東省	豫—河南省
晋—山西省	陝—陝西省	甘—甘肅省
閩—福建省	粵—広東省	桂—広西チワン族自治区
川—四川省	滇—雲南省	黔—貴州省
蘇—江蘇省	浙—浙江省	皖—安徽省
湘—湖南省	鄂—湖北省	贛—江西省
青—青海省	新—新疆ウイグル族自治区	
寧—寧夏回族自治区		蒙—内蒙古自治区
藏—チベット自治区		台—台湾省

この略称には 常にぶつかるものと思った方がよい。例えば「冀東遷安太古界混合岩の特徴和成因」という論文の表題を読むとする。これは 実際に長春地質学院学報に載った論文であるが これを「冀東地方の遷安の始生界ミグマタイトの特徴と成因」と訳したら不正確であり「冀東県遷安の——」と訳したら間違いである。「河北省東部 遷安県の——」と訳すべき標題である。

この訳で類推されるように 中国の中国語の論文では 県名の場合「県」が省略される習慣があるので これも気をつけること。実際に県名であるかどうかは念のために「中国分省地図」で確認することが望ましい。この地図には 県政府の所在地が所定の記号で洩れなく記載されているし 地図そのものは日本の関係書店が大量に輸入し かなりの在庫をかかえている。

### 省などの略称の源

どうして省・市・自治区の名称が上記のような略称で表されるのか。雑誌「解放軍生活」の1987年1月号に述べられているところによると その省略の仕方には3種のものがある。

その一つは 歴史上の名称に関係するものである。たとえば 山東省を「魯」と略称するのは同省の大部分の地域が春秋時代の魯国に属していたからであり 山西省を「晋」と略すのは 同じく春秋時代にその大部分の地域が晋国の領土であったからであり 雲南省の東部地域が同じく滇国の領有するところであったから 今でも雲南省を「滇」 貴州省はその東北部が秦の時代に黔中郡に属していたから「黔」 広東省はかつて南粵国の管下にあったから「粵」 河南省は古代の豫州一帯に位置しているので「豫」とそれぞれ略称されているのである。また古代中国では 冀州 豫州 雍州 揚州 邢州 徐州 梁州 青州 荊州という九つの州が置かれ 河北省の大部分の地域が古代の冀州に属していることから 河北省を「冀」 甘粛省はその大部分の地が古代の隴西郡に統轄されていたので「隴」（しかし 現在では「甘」を用いる場合が多い） 広西壮族自治区は秦の時代に桂林郡の管轄地であったから「桂」となった。また四川省は北宋の咸平四年 その東部地域に川陝四路が設置され その川陝四路が後に四川と呼ばれるようになり それから現在も「川」と略され さらに現在の四川省の一部が古代の蜀国の領土であったため「蜀」と略称されることもある。湖北省は春秋時代に一部の地方が楚の鄂王の封地であったこと そして漢と隋の時代に鄂州が置かれたので「鄂」と呼ばれるようになった とのこ

とである。

二つ目は フルネームから一字または二字を取ったもので 上述のように「吉」は吉林省 「遼」は遼寧省 「蘇」は江蘇省といった具合である。したがって 先に述べた「黒」「寧」「新」または「新疆」「蔵」はこの種の省略に入るとも言える。上記の甘粛省を「甘」と呼ぶ場合は この方式に入る。

三つ目は 域内の有名な河川か山岳の名称から抜き取った略称である。たとえば 安徽省には西南部に霍山があり またの名が皖山なので 安徽省を「皖」と呼び 江西省の域内最大の川が贛江であるから江西省は「贛」 閩江があるから福建省は「閩」 域内を貫通して湘江が流れているので湖南省は「湘」と略される というわけである。

### 単漢字で複数の事象

省略が徹底してくると 最後に残るのは単漢字である。最後に残ったということは 必然的にその単漢字が多くの意味を持たされてしまうことになる。やたら無秩序に単漢字を残すと 意味不明の文章になるから 自ずと最後に残される単漢字にも制限がある。前後の文章に繋がる 意味鮮明な場合に限ることになる。と言っても 中国の人にとっては簡単に理解できる言葉でも 日本人の漢字の使い方と違っていれば 間違った解釈が生まれることになるだろう。いくつか 例を挙げてみる。

**礦**：「礦」で表されるものとしては 鉱物 鉱石 鉱体 鉱床 鉱山の5種類のものがある。

黄銅礦 磁鉄礦の礦は 鉱物の中で金属光沢をもっているものに付けられる「礦」である。これは 日本の場合と同じであるが たとえば万山鉱山第一礦の礦は第一鉱体の「礦」であり 東川銅礦の礦は鉱床群の「礦」 招遠金礦の礦は鉱山の「礦」である。ややこしいのは 鉄礦 銅礦の礦の場合で 鉄の鉱石 銅の鉱石にそれぞれ付けられる「礦」でもあり 鉱体を意味する「礦」のこともあり 鉄鉱物の「礦」を意味することがあり 鉱床や鉱山を示す「礦」であったり いずれにしても前後の文章から真意を読み取らなくてはならない。

中国自身が「まぎらわしい」言葉を改めたいであろうし 「まぎらわしい」専門用語の出現を防ぎたいに違いない。 鉱床名から付けた鉱物名なら 全く同じ綴りの片や鉱床名 片や鉱物名という名称があるかも知れない と思い 意地悪く懸命に探したが ついに見つけ出すことはできなかった。たとえば黄河の名を取った鉱物「黄河鉱」の場合で言えば 黄河という名の鉱床も鉱山

もなく 鳳凰鉱山の名を取った鉱物は何と「鳳凰石」  
うまく混乱を避けている という感じである。

山：チベット自治区にカイラス山という山がある。  
標高 6,714m もの高峻な山岳である。この山を含んだ  
一連の峻岳を連ねる山脈をカイラス山脈と言う。この  
山を中国では「岡底斯山」と書き表し カイラス山脈も  
「岡底斯山」と書く。大行山脈 陰山山脈 南嶺山脈  
などなど いずれも「大行山」「陰山」「南嶺」と  
表されている。要するに 中国語の文献では山も山脈  
も「山」か「嶺」で片付けられている。

地質学関連の文献では 取り扱われている地域が何処  
か どの範囲かは非常に重要な問題であるから 文意に  
もとづいて識別することが必要である。もしその文献  
に英文やロシア文の要約か標題が付けられていれば 山  
か山脈かの区別は簡単である。

### 儀礼的な表現

これは 事実の記載に当って雰囲気や和らげる働きを  
する表現とも言える。自然科学分野の論文にふさわし  
い用法ではないが しかし頻繁に使われる言葉である。  
そのもっとも代表的な漢字が「等」（など）であろう。  
少し長いが 実例を挙げてみる。

「筆者将広東錫鉱床分为15箇類型：錫石硫化物型 錫  
石複硫酸多金属型 錫石硫化物夕卡岩型 錫石石英(脈)  
型 錫石黒錫石英(脈)型 錫石石英電気石型 錫石緑  
泥石型 錫石花崗岩型 錫石雲英岩型 斑岩錫型 錫石  
偉晶岩型 含錫磁鉄鉱型 錫石火山熱液型 錫石内陸沖  
積砂鉄 錫石浜海砂鉄等。」(馮連順：“対広東幾類錫  
鉱床の初歩認識”：<地質与 勘 探> 1986 第3期 21  
頁から)

これは 「筆者は 広東省の錫鉱床を当面15タイプに  
分類する。すなわち 錫石—硫化物型 錫石—複硫酸  
—多金属型 錫石—硫化物—スカルン型 錫石—石英  
(脈)型 錫石—鉄マンガン重石—石英(脈)型 錫石  
—石英—電気石型 錫石—緑泥石型 錫石—花崗岩型  
錫石—グライゼン型 斑岩錫型 錫石—ペグマタイト  
型 含錫磁鉄鉱型 錫石—火山性熱水型 錫石内陸沖積  
—崖錐砂鉄型 錫石海浜砂鉄型などである。」と言っ  
ているのである。ここで挙げられているタイプの数を  
数えてみよう。チャンと 15が書き並べられているで  
はないか。だから これに「等」は書けないはずであ  
る。まだ ほかにタイプがあると錯覚を起されてしま  
うだろうから。この場合 もちろん翻訳に当って  
「——などである」としてしまえば それは誤りなの

1988年12月号

である。

ただし 15のタイプのうち12しか記述しないのであれ  
ば 当然 最後に「等」が書き足されなくてはならない。  
数が述べられていれば 「等」の適否は選択でき  
る。もし数が述べられていなければ また数が述べら  
れていなくて論文の内容の事実関係に精通していなけれ  
ば 「等」の適否は選択できない。そのような「等」  
に苦しめられる場面も出てくる。その適否を追って正  
解に到達しない場合には 筆者は「など」を付してい  
る。そして 釈然としない気分責められている。

日本語でも 「私ごときは」といった謙遜の意味で  
あるいは「私だからこそ」という誇張をこめて あるいは  
「私だけでなく」という責任逃れ(?)で 「私など  
は」と言う場合があるように見受ける。

「我」(私は)と「我們」(私たちは)の関係にも  
「等」の用法や「私などは」に似かよった考え方を感  
じる。一人なのに「我們」が使われる という場面のこ  
とである。私は「我們」に出会って 筆者の数を見過  
したり 謝辞のページを繰ったりすることがある。

### 辞書について

特定の企業の宣伝になりそうなことは避けたくて 今  
まで辞書の具体的な紹介はしなかった。ところが  
「思いつくままの地学用中国語」を本誌の第394号に載  
せてから 動力炉燃料公社の資料関係の方から同社にお  
ける専門辞書の収集を通じて確認された 中国での地球  
科学分野の専門辞書の発行状況をお知らせ下さったり  
「勉強したいので 良い辞書を教えて欲しい」というお  
手紙を戴いたり 中国の地名の英漢辞典あるいは鉱物名  
の漢和辞典・漢英辞典の存否を尋ねられたりして このま  
ま放っておくわけにはいなくなってきた。こうなっ  
たら 入手できた中国語関係・中国語地球科学関係の辞  
書と便利に使っている辞書 出版が確認できた地球科学  
関係の中国語辞書 出版目録に掲載された地球科学関係  
の中国語辞書を総まくりして 参考にしていただくほか  
はない。それで まとめたのが以下の辞書リストであ  
る(順不同 日本で出版されたものは割愛)。

1. 俄漢鉱業技術辞典：俄漢鉱業技術辞典編審委員会編：煤  
炭工業出版社 1958
2. 環境保護辞典—漢日英詞匯対照：化学工業部化工設計公  
司編：石油工業出版社 1983
3. 現代漢語縮略語詞典：鍾嘉陵編著：齊魯書社 1986
4. 現代漢語量詞手冊：郭先珍編著：中国和平出版社 1987
5. 英漢地震工程学詞匯：盧榮儉・肖光先・謝礼立編：地震  
出版社 1983

6. 英漢地質学縮写詞匯：吳春榮・張錫榮編：科学出版社 1978
7. 英漢綜合地質学詞匯：科学出版社 1970
8. 地質辞典（一）普通地質・構造地質分冊（上冊）：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1983
9. 地質辞典（一）普通地質・構造地質分冊（下冊）：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1983
10. 地質辞典（二）鉱物・岩石・地球化学分冊：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1981
11. 地質辞典（三）古生物・地史分冊：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1979
12. 地質辞典（四）鉱床地質・応用地質分冊：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1986
13. 地質辞典（五）地質普查勘探技術方法分冊（上冊）：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1982
14. 地質辞典（五）地質普查勘探技術方法分冊（下冊）：地質部地質辞典辦公室編輯：地質出版社 1982
15. Seven-Language Dictionary of Scientific and Technical Terms in English, French, Russian, German, Chinese, Japanese and Korean: Geology and Geography: 平穰 1969
16. Seven-Language Dictionary of Scientific and Technical Terms in English, French, Russian, German, Chinese, Japanese and Korean: Mining: 平穰 1969
17. 日漢地震学詞匯：上海地震局：地震出版社 1983
18. 国際構造地質詞典—英語述語：地質出版社 1983
19. 地理学詞典：上海辞書出版社 1983
20. 測繪詞典：上海辞書出版社 1982
21. 英漢綜合地質学和地球物理学詞匯：科学出版社 1983
22. 英漢探鉱工程詞典：地質出版社 1982
23. 水文地質詞匯—英中法德俄文对照：地質出版社 1983
24. 英漢海洋学詞匯：科学出版社 1984
25. 英漢鉱業詞匯：煤炭工業出版社 1983
26. 英漢地球物理探鉱詞典：地質出版社 1984
27. 英漢現代地層学詞典：科学出版社 1984
28. 日漢・漢日世界地名訳名手冊：蔡文治・韓曼君編：中国對外經濟貿易出版社 1983
29. 日漢地震学詞匯：煤炭工業出版社 1982
30. 英漢油鉱詞典：化学工業出版社 1982
31. 英漢鉱物名詞手冊：地質出版社 1983
32. 岩石学詞典：吳樹仁著：地質出版社 1988
33. 英漢漢英土壤学詞匯：謝建昌・曹升賽・陳際型主編 1988
34. 英漢礦物名称：汪正然 主編：科学出版社 1987
35. 俄漢科技詞典：科学出版社 1988
36. 中華人民共和國分省地圖集：地圖出版社 1984
37. 科学技術日語：第一冊：孫明久 編著 1988
38. 福建省地圖冊：福建省地圖出版社 1982
39. 河北省分県地圖冊：地圖出版社 1982
40. 浙江省地圖冊：地圖出版社 1982
41. 中国大百科全書：地質 1989
42. 広西壮族自治区地圖など省別各1葉の地圖シート：地圖出版社
43. 外国地名訳名手冊：中国地名委員会編：商務印書館 1983

44. 科学技術百科全書：地球物理学・気象学・海洋学 1988 など

## おわりに

今回は主に省略語についてお話した。中国が日本と同文同種の国であると言えるのは程度問題で、すべて同文同種なら翻訳を必要としないはず。いろいろな方が簡体字に悩み、同文異義に苦しみながら中国の文献に挑まれている。その苦吟は筆者とて同じである。「必ず訳しきってみせる」という決心と「自分が訳さなくて誰が訳す」という使命感、そして所持する辞書・辞典類の多彩さ、原著が取り扱っている分野での専門的知識の有無が、結局は翻訳の成否を決めるのではないかと筆者は思っている。

したがって、地質科学領域の外国文献の読解はもちろんのこと、翻訳刊行も地質科学の徒がその外国語を学んでから取り掛かるべきもので、該当する外国語の専門家なら、どの分野の科学論文でも自在に訳せるというわけにはいかない。

幸いなことに、自然科学のどの領域の論文も、それが日本語であれ外国語であれ、それぞれの領域に独特な用語が繰り返し使用され、意表外の言葉に出会うことは全然ないか、あるいは非常に少ない。それだけ面倒がない。

現在、日本で中国語の科学論文を翻訳する人々は、英語・フランス語・ドイツ語・ロシア語に比べると少ない。僭越とは思ったが、とくに地球科学関係の分野での中国語の論文を翻訳する人が地質調査所に一人はいなくてはならないのではないかと考えながら、とうとう養成について成す術も無く定年を迎えてしまった。中国から続々と地球科学分野の本や雑誌が日本に届いている。現在、「尊公出でずんば」と決心される方々のあることを切に期待し、待望している次第である。

おわり

第1図 シリーズ 辞書さまざまな 題とその内容

地質礦物学大辞典凡例

- 一、本書採録之範圍包括地質學、礦物學、岩石學、地質構造學以及地質學與地質工程之交叉學科之化石及地質學。
- 二、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 三、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 四、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 五、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 六、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 七、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 八、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 九、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 十、地質學與礦物學之分類及地質學。

地質學大辭典凡例

- 一、本書採録之範圍包括地質學、礦物學、岩石學、地質構造學以及地質學與地質工程之交叉學科之化石及地質學。
- 二、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 三、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 四、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 五、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 六、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 七、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 八、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 九、地質學與礦物學之分類及地質學。
- 十、地質學與礦物學之分類及地質學。

英汉地震工程学词汇

卢荣俭 肖光先 谢礼立 编

地震出版社

1983

amplitude	震幅	of bow	損失系数
spectrum	【震】尾波谱	of performance	特性系数
wave	【震】尾波	of reflection	反射系数
code	(1)规范, 法典, 法则 (2)码 (3)符号	of refraction	折射系数
of practice	实用规范	of resilience	回弹系数
revision	修订规范	of resistance	(1)电阻系数(2)阻力系数
coded	编码的	of restitution	恢复系数
decimal	二进制编码的十进制	of rigidity	刚性系数
coder	编码器	of shear	切变系数, 剪力系数
coding	编码	of soil reaction	土壤反力系数
coefficient	系(数)数	of stiffness	刚度系数
affecting fundamental period	基本周期影响系数	of strain-hardening	应变硬化系数
of absorption	吸收系数	of transmission	传递系数
of amplification	放大系数	of uniformity	匀质系数
of autocorrelation	自相关系数	of variation	变差(异)系数
of compression	压缩系数	of viscosity	粘滞系数
of conductivity	传导系数	cofactor	余因子
of contraction	收缩系数	coffer	(1)沉箱(2)堰戽
of correlation	相关系数	cofferdam	堰戽
of coupling	耦合系数	coffered foundation	沉箱基础
of damping	阻尼系数	of wall	围堰墙
of diffusion	扩散系数	coherence	相干[性], 相关[性]
of drag	曳力系数	of effect	相干效应
of elasticity	弹性系数	of function	相干函数
of elongation	伸长系数	of matrix	相干矩阵
of expansion	膨胀系数	coherent noise	相干噪声
of friction	摩擦系数	of wave	相干波
of internal friction	内摩擦系数	cohesion	(1)粘附, 粘合力(2)内聚力
of irregularity	不规则系数	of moment	粘聚力矩
of linear expansion	线性膨胀系数		

地質學名詞

变层岩	varved slate	背斜断層	ridge fault
板层	laminated clay (varve clay), varves	背柱	back-bone
层理	lamination	背脊	back-bone
层序	laminæ, laminae (lamiña)	航海图	sea chart
层序建造	laminated structure	草原	steppe
纯剪切	pure shear	被动侵入	passive injection
纯岩层沉积	cupelagic deposit	被掩岩體	overridden mass
纯应变	pure strain	被覆礦物	perimorph
沙槽(上密雷)	Shamao	被覆河	captured river
泥		被覆河	captured river
被覆结构	graded softment	被覆梯级	decken structure, superposition
缺口	notch	被覆	recording drum
断层	hiatus	记录鼓	time-marking clock
链	chain, vein	记录地質稿	geogony
脉石	gangue, vein stone, vein stuff	记录	record, register
脉石英	vein quartz	记录纸	record receiver, registration paper
脉尖	apex of vein	记录纸速率	speed of paper, speed of registration
脉系	vein system	记录装置	registering arrangement
脉岩	dike-rock, dyke rock, vein rock	记录筆	recording pen, recording pointer
脉岩脉	vein dyke		

中國科學院編譯局編訂 中國科學院出版

1954年12月

1988年12月号



英汉常用地质学词汇

ENGLISH-CHINESE DICTIONARY OF COMMON GEOLOGICAL TERMS

英汉地质学外语教学词典



科学出版社

1981



英汉地质学缩写词汇

YING-HAN DIZHIXUE SUOXIE CIHUI

英萃荣 张鹤译 编



科学出版社

1978



石油部地质研究所

英汉矿业词汇

AN ENGLISH-CHINESE MINING GLOSSARY

增订本

煤炭工业出版社

~ vulcano 死火山 extrapolution [eks'trəpə'leɪʃən] 外推法
extraterrestrial geology 天体地质学
extravagation [eks'trə'veɪʃən] 塔塔外塔
extreme [iks'tri:m] (1) 末端的, 尽头的 (2) 极端的, 极度的
extremely [iks'tri:mli] 极端的, 极度的
~ coarsely crystalline 粗晶质
~ finely crystalline 极细晶质
extrude [eks'tru:d] (1) 挤压出, 挤出 (2) 抽出, 突出
extrusion [eks'tru:ʒən] 挤出
extrusive [eks'tru:sɪv] (1) 喷出的 (2) 喷出岩
~ body 喷出体
~ rock 喷出岩
exulation [eksju:'leɪʃən] 渗出 (物), 渗出(物)
~ vein 分脉, 分脉脉
eye [aɪ] (1) 眼, 眼状物 (2) 孔, 环
~ and-eyebrow structure 眼眉状构造
~ sketch 目视草图
~ survey 目测
eyepiece ['aɪpi:s] 目镜
eyestone ['aɪstəʊn] 眼石(玛瑙)

F

fabric [fæbrɪk] 结构
~ analysis 岩相分析
~ element 结构要素
face [feɪs] (1) 面, 壁 (2) 工作面

color. colorless 无色的
COLPET Colombian Petroleum Co. 哥伦比亚石油公司
Colum. columbate 钼酸盐类
Colum. Columbia 哥伦比亚州(美国)
Col. Univ. Columbia University 哥伦比亚大学(美国)
Com. Commission 委员会, 协会
COM Commission on Ore Microscopy 矿石显微摄影委员会
Com. committee 委员会
com. common (1) 共同的 (2) 普通的
COM Computer output on microfilm 缩微胶片的计算机输出
comb. combination 聚形
comb. combined (1) 化合的 (2) 联合的
comb. combined (1) 化合的 (2) 联合的
comb. combination 聚形
COMIBOL Corporación Minera de Bolivia (西) 玻利维亚矿业公司
COMLOG Compagnie Minière de l'Ogooué (法) 奥果有矿产公司
COMINCO Consolidated Mining & Smelting Co. of Canada, Ltd. 加拿大统一矿业和冶金有限公司
comp. comparative 比较的, 相当的
comp. compilation 编辑, 编辑物
comp. compiler 编译
comp. completed 完全的, 圆满的
comp. complex (1) 复杂 (2) 混合物
comp. composite (1) 合成物 (2) 合成的, 复合的
comp. composition (1) 成分 (2) 组成
comp. (comp.) compound (1) 化合物 (2) 复合物, 混合物 (3) 复合, 混合
comp. comprise 包含, 由...组成
comp. comparative 比较的, 相当的
comp. fill. compressing filter 特滤液器
compl. complement 安全的
compl. complex (1) 复杂 (2) 混合物
compa. (comp.) comparison (1) 成分 (2) 组成
compon. component 组分
compos. composition (1) 成分 (2) 组成
compa. compounds (1) 化合物 (2) 复合物, 混合物 (3) 复合, 混合

unwashed fine ~ 原煤
upper ~ 上部煤层
utility ~ 发电用煤
viger ~ 威布敦(英国) 煤管管带
~ virgin ~ 处女煤
wandering ~ 鸡窝煤, 范围狭小的
~ 煤层, 不规则煤层
wax ~ 类有蜡状土状煤
washed ~ 洗煤, 精煤(煤经洗选)
waste ~ (1) 尾矿 (2) 从矿渣
~ 粗的煤, 煤泥
waterborne ~ (1) 船运煤 (2) 水运煤
wax ~ 蜡质(含于煤层中, 非真正的)
weak ~ 脆弱, 弱
weakly coking ~ 弱粘煤
weathered ~ 风化煤
white ~ 白煤(白)
whole ~ 煤经洗选, 煤经洗选
wild ~ 类野煤, 煤质煤, 野煤
withdrawable ~ 可回收的煤, 可回收煤
wood ~ 褐煤, 木炭
woody ~ 木质煤
woody brown ~ 木质褐煤
yolk ~ 蛋黄, 蛋黄煤
~ apple (1) 苹果煤, 煤球 (2) 煤球
~ 中仔煤(含煤的钙, 煤球, 煤球, 煤球)
~ ball (1) 煤球(煤) (2) 煤球
~ brass 煤中黄铁矿
~ burned to top or bottom 粗煤
~ 煤质煤(煤质煤不分离的煤)
~ clay 煤土
~ conglomerate 煤砾岩
~ deposit 煤沉积物
~ fetter 煤粉
~ fuel ratio 煤-煤比(煤-煤比)
~ 产率-煤质煤(煤)

英汉地质词典

ENGLISH-CHINESE DICTIONARY OF GEOLOGY

《英汉地质词典》编辑组编

地质出版社

alpha-radioactivity

alpha-radioactivity α放射性
~rathite α双碑铀矿, α拉铀矿
~ray (alpha particle) α射线, α粒子
~ray spectrum α射线谱
~recoil track α反冲径迹
~sartorite α铀铀矿
~scattering α射线散射
alphascopo 毛镜显示器
alpha-spopillite α磷石
~spectrum α射线谱
~trechmannite α羟磷铀矿
~uranopillite α铀矿
~uranolite α铀铀矿
~usbekite α永伏铀矿
~wilkite α铀矿
alphanite 岩盐土
Alpides 阿尔卑斯造山带, 阿尔卑斯褶皱系
alpine (1) 高山的 (2) 阿尔卑斯式的
~age orogeny 阿尔卑斯期造山运动
~ amphibolite facies 阿尔卑斯角闪岩相
~ belt 阿尔卑斯带
Alpine bicouple 阿尔卑斯双对偶 (指地中海和东地中海)
alpine border lake 山前湖, 冰蚀谷湖
~ climate 高山气候
~ diamond 黄铁矿
~ fir 高山冷杉, 高山枞
~ fire (melt fire) 融雪冰
Alpine fold 阿尔卑斯褶皱
alpine form 高山地形
~ geomacinae 阿尔卑斯地槽
~ glacier 高山冰川, 阿尔卑斯型冰

32

alpine range 阿尔卑斯式山脉
~ relief 高山地形
~ sculpture 高山冰川雕塑
Alpine tectonics 阿尔卑斯构造
alpine trough 高山型冰蚀槽
~ tundra 高山冻原
Alpine-type 阿尔卑斯型
~type chromitite deposit 阿尔卑斯型铬铁矿床
~type orogeny 阿尔卑斯型造山运动
~type valley glacier 阿尔卑斯型山谷冰川
alpine valley glacier 高山山谷冰川
~ zone 高山带
alpinotype 阿尔卑斯型
~ orogenesis 阿尔卑斯型造山作用
~ tectonics 阿尔卑斯型构造
alpland 阿尔卑斯式地形区
Alps mountain glacier 阿尔卑斯式山岳冰川
Al-pyroxene 斜辉石, 绿辉石
aliquifere 粗粒岩相
alud 粗晶状岩
Al-saponite 皂石
alshachite 榴云(花)闪(云)斑岩 (榴云榴斑岩)
ALSE (Apollo lunar sounder equipment) 阿波罗月球探测装置
ALSEP (Apollo lunar surface experiments package) 阿波罗月球表面实验器
alshedite 钨磁石
alium (1) 铝晶群 (2) 硬铝平型原
Altophilidites (抱砂) 拟砂岩类
alstonite 三斜独脚石(独脚石)
altai 金

조선민주주의인민공화국 과학원 대역사전 편찬위원회

7개국어 과학기술용어사전

(지킬지리편)



번역 출판사 평양·1969

80/207 (307) 3000-1

Table with 4 columns: No., 영 어, 프랑스어, 의미. Rows 217-232 covering terms like clothing agent, flow, flow cleavage, etc.

Table with 4 columns: No., 독일어, 중국어, 일본어, 조선어, No. Rows 217-232 covering terms like Fluss m., Flut f., etc.

日汉矿业词汇 《矿业词汇》编审委员会 编 煤炭工业出版社

Table with 2 columns: 1830, 1830. Rows for roller-related terms like roller-gate, roller-conveyer, etc.

# 全国乡镇地名录

中华人民共和国民政部行政区划处编

龙口乡 泗水乡 高塘乡 石角乡 深源乡 新八都乡 九龙埔乡	协民乡 戴江乡 大坪乡	鱼田乡 城北乡 中岭乡 良殿乡	续南乡 北塘乡 戴家洲乡 船潭乡	妙子岗乡 三台岗乡 白云乡 元墩乡	161
新心瑶族乡 九龙埔瑶族乡		三水瑶族乡 新九瑶族乡		田心瑶族乡 瑶安瑶族乡	8
阳城镇 江佐乡 惊网乡 龙家乡 岩洞乡 大桥乡 瑞河乡 鱼水乡 杜步乡 大路乡 竹塘乡 潭村乡 火岗乡 桃花乡 三元乡 箭水乡 白莲乡 砂田乡 联坝乡 保平乡	育莲镇 深塘乡 柳塘乡 对塘乡 田心乡 寨洞乡 樊村乡 鱼坑乡 石溪乡 石井乡 小塘乡 藤坪乡 岩口乡 石角乡 太平乡 阳光乡 何皮乡 大塘乡 松林乡 大龙乡 大塘乡	黎坪镇 南塘乡 中心乡 大塘坪乡 大塘乡 寨洞乡 河坪乡 温川乡 东山乡 和平乡 隔坑乡 龙竹乡 龙光乡 沙塘乡 平洞乡 茶坑乡 板林乡 均安乡 升平乡	七拱镇 峡头乡 峡边乡 江英乡 马坪乡 寺山乡 五爱乡 大星乡 赤江乡 寨水乡 合上乡 联坑乡 新坪乡 横河乡 大城乡 田庄乡 寨坑乡 大星乡 坑塘乡 均安乡 升平乡	岭背镇 大坪乡 英阳乡 美阳乡 上坪乡 水口乡 草坑乡 山坪乡 贵木乡 芙蓉乡 冷板坑乡 三折乡 莲枝乡 苦菜乡 大寺乡 新阳乡 慈边乡 隔江乡 凤山乡 界坪乡	5
阳山县					

第2図 シリーズ  
地名集・地図さま  
ざま その標題と  
内容

测绘出版社

一九八六年·北京

ENGLISH - CHINESE  
DICTIONARY OF  
GEOGRAPHICAL NAMES

## 英漢中外地名詞匯

廖正等編

Mia 66 Min

- Mianchi Xian (HEN) 瀋池縣 (河南)
- Mianhua Yu (TW) 棉花嶼 (台灣)
- Mianning Xian (SC) 冕寧縣 (四川)
- Mian Xian (SN) 勉縣 (陝西)
- Miayang Xian (HB) 沔陽縣 (湖北)
- Miayang Xian (SC) 綿陽縣 (四川)
- Mianzhu Xian (SC) 綿竹縣 (四川)
- Miaodao Qundao (SD) 朝島群島 (山東)
- Miaoli (TW) 苗栗 (台灣)
- Miaogou (Utu)(XJ) 廟溝 (新疆)
- Midu Xian (YN) 彌渡縣 (雲南)
- Mile Xian (YN) 彌勒縣 (雲南)
- Miluo Xian (HN) 汨羅縣 (湖南)
- Mifeng (Niya) Xian (XJ) 民豐縣 (新疆)
- Minggang (HEN) 明港 (河南)
- Mingshan Xian (SC) 名山縣 (四川)

49293

商務印書館

# 中國古今地名大辭典

臧勵蘇等編

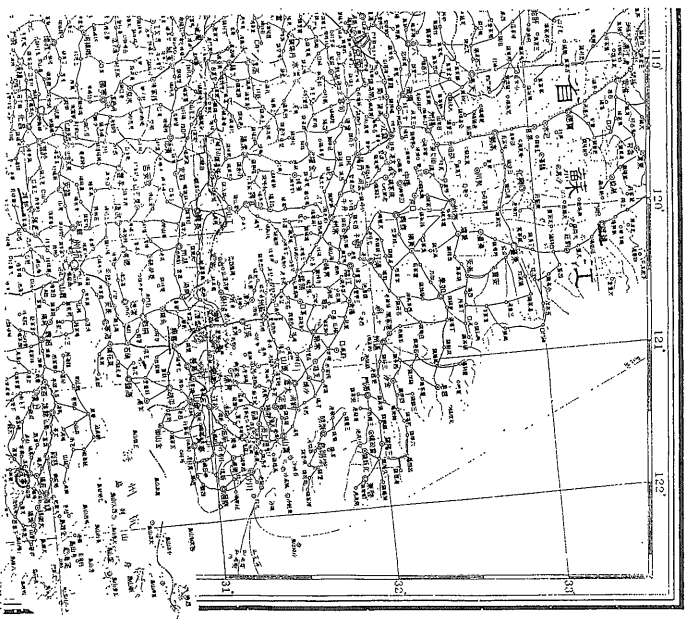
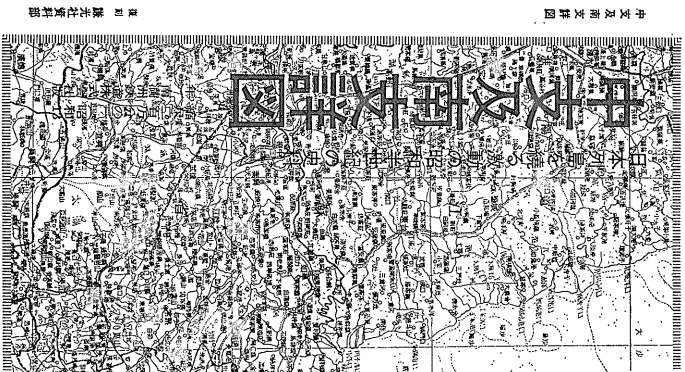
商務印書館



91 15.1

地名大辭典 十四畫 條目 條目 條目 條目

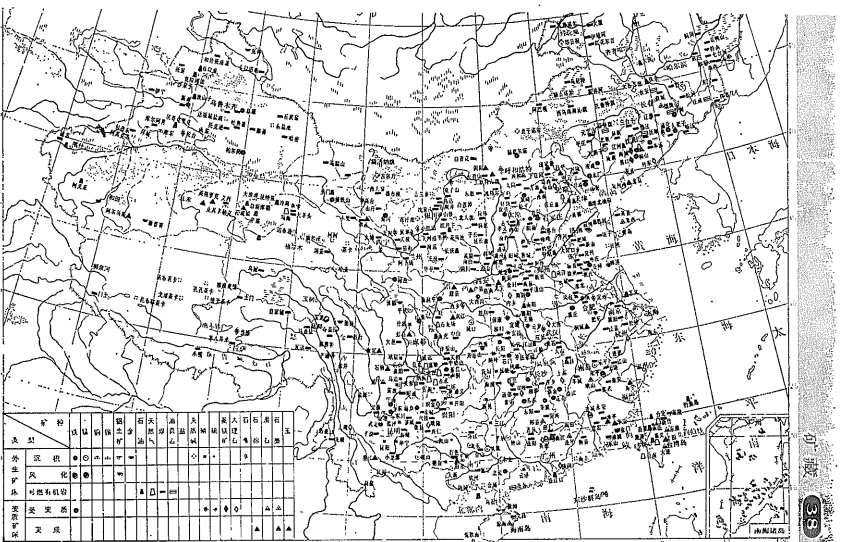
【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。
【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。
【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。
【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。	【渠水】即今四川之渠水。



高等学校教学参考用

# 中国 自然地理 图集

地图出版社



本年から読むことにした月刊  
「中国地質」誌。  
気楽に読める広報誌。

ISSN 1000-3657

ISSN 1000-365

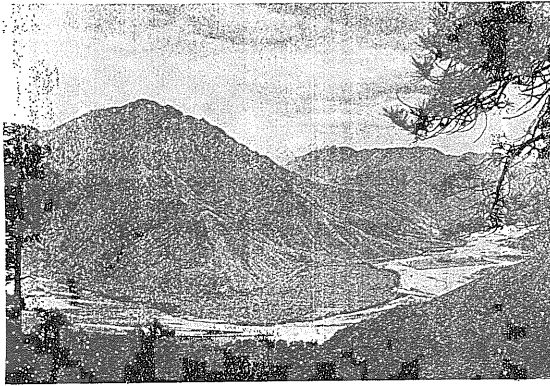
# 中国地質

ZHONGGUO DIZHI

DIZHI

1  
1988

1988 2



中华人民共和国地质矿产部主办

矿产部主办

## 中国地質

(月刊)

中华人民共和国地质矿产部主办  
一九八八年 第四期



编辑者 中国地質编辑部

(北京22号信箱)

印刷者 地质出版社印刷厂

(北京海淀区学院路29号)

总发行处 北京市邮政局

订购处 全国各地邮局

(总第111期) 1988年4月13日出版

### 目 录

在十三大精神指引下搞好地矿科技攻关  
工作……………夏国治 (1)

指导成矿预测的地质理论——成矿学理  
论和应用……………朱和生 (7)

实现找矿重大突破的目标与措施  
……………河北省地质矿产局 (10)

深化改革把 1/5 区调提高到世界先进  
水平……………边致曾 (13)

工作研究  
大陆超深地质钻探势在必行……………刘广志 (16)

矿床的地球工艺方法采矿与地质勘探 (一)  
……………王 敏 (18)

改革  
对地质勘查单位全面推进行包经营的决  
策过程……………彭云彪 冯剑萍 (3)

管理  
队所真诚合作 科技攻关不难  
……………辽宁地矿局第十地质大队 (21)

矿产资源分析  
我国铁矿资源的开发和发展……………杨顺祖 (22)

矿产开发管理  
勘查登记工作现状——兼谈行业体制改  
革的必要……………王池介 (24)

矿产勘查  
河北燕家营铅锌银多金属矿床简介及找  
矿体会……………河北地矿局第三地质大队 (31)

“三义”环境地质  
参加湖南溆浦国土规划工作的几点体会  
……………江振扬 (32)

地质之窗  
印度第七个五年计划 (1985—1990) 的  
地质矿产工作……………章 智 (30)

思想教育  
贯彻十三大精神 深化“三光案”教育  
……………余秉力 (27)

地学人物志  
谭锡畴……………王卯之 (15)

地学园地  
小资料 世界狗市场供过于求价格下降值得注意  
读者来信 (9、26、29)

封面照片: 高黎贡山景观 郑凌云 摄  
封底: 北戴河的海蚀地貌 叶于 摄

· 工作研究 ·

## 大陆超深地质钻探势在必行

刘广志

近代高技术的发展与运用,使地质科学的研究向“外太空”(利用资源卫星)和“内太空”(即地球深部)两个方向发展。一门新兴的“深部地质学”已经兴起,引起世界地质学家的广泛重视,并进而形成一项《国际岩石圈计划》(ILP),自1981年实施以来,已取得一些成就。这是一项80年代地球科学带有前瞻性和战略意义的国际性多学科的研究计划。

我国也组建了“中国岩石圈委员会”。深部地质学是以地球地壳、莫霍面、上地幔为主要研究对象,其研究目的可概括为3点:

1. 揭示地壳深部和上地幔的奥秘,为地质学家探索新的成矿规律与成矿理论。从解决长远的资源需求出发,为子孙后代造福,为全人类作出贡献。
2. 从解决长期能源来源着手,开发深部地热,即干热岩体(HDR)能源。干热岩体热能是非枯竭性能源,美国洛斯·阿拉莫斯研究所所在卡尔德拉(Caldera)于1986年打成的试验发电井已证实了这一点。
3. 从地壳深部研究地质形成的原因与机理,从而预报地震。我国有广阔的地震区;喜马拉雅山脉等良好的地质环境;我国还拥有一大批老—零级深—高深的地质学家,他们带领中青年地质学家、地球物理学家,近年来在深部地质学与岩石圈的研究中,在许多领域都取得了可喜的成果。然而,当前的国际岩石圈计划与深部地质学的研究已急速向地球的纵深发展,这是急待引起我们重视的科研动态;即以已取得的大量实测资料(地球物理方法和遥感)和实物资

料(深部钻探)为依据,以板块构造和大陆漂移理论为基础,作出全球性综合分析,逐渐进入定量并上升为高度理论概括的新阶段。其作法是:

- (1) 通过超深钻孔钻探取得的实物资料,为地质学家提供大陆地质构造与海洋地质构造的相互联系,进行统一的研究考虑。
- (2) 用超深孔钻探将地表大地构造和地球内部作用相互联系予以综合研究。

超深孔钻探又分海洋超深钻探和大陆超深钻探(大陆超深孔钻探),以美国为首的工业国正在进行《大洋钻探计划》,为节约投资,我国应迅速开展大陆超深钻探。为对人类未来资源、能源的需求和地球科学的发展,作出更大的贡献。

有关大陆超深地质钻探综述如下:

- 一、大陆超深孔钻探的主要意义与作用
  1. 检验深部地球物理探测结果
  2. 将仅从地球表面进行2度空间探测,通过超深钻探变为3度空间探测;
  3. 通过苏、美、西德、瑞典实施超深钻探获取的岩心、液、气态样、测壁样和多种测井资料证明,必将把过去有关大陆深部构造、组成、成矿理论的观点完全或部分地刷新。
  - 二、外圈实施超深孔钻探计划概况
- 苏联为了统一协调超深孔钻探规划,国家科委组建了《地球地壳深部研究与超深孔钻探部门科学委员会》,拟于(十五)计划期间完成198项科研计划。其中包括设计施工万米以上的超深孔16口和6000米左右的卫层井15口。1986年3月当CT—3井钻进到